

## フィリピン情報 No. 29

### フィリピン伝来の赤ん坊へのO脚矯正マッサージ文化 足長 & 歩く姿の美しさの根源を知る Philippine original ancestor treasure "unique massage" for babies Long legs with beautiful walking style derived

サイトの所々で言及しているのですが、些か気が引けないでもありませんが、フィリピンに来て真っ先に目にとまったのは、フィリピン女性のプロポーションの美しさです。とりわけ歩く姿が颯爽、堂々としていたことでした。学校で歩き方を教わっているのかな？とも思ったりしたものでした。

ニッポン人は猫背気味で謙虚さもあってか、歩く時の姿勢は幾分前かがみで、つつましやかさが見受けられます。立っている時でも、両足は内股気味で、大和撫子を自他ともに演出することが美德とすら、考えられてきました。控えめな国民性がその背景ですが、話す時に、やたらとペコペコ頭を下げるのがそれに拍車をかける感じです。

日本に居たころは、それが当たり前だと、別段違和感をあまり抱きませんでした。もっとも、当時からCNNなど海外のテレビを良くみていたせいで、そうしたニッポン人の仕草に、幾分か違和感を抱いていたことも事実です。こちらへ来て、ニッポン人でありながら非ニッポン人的な考えが深まっている自身を感じます。

さて、くだんのフィリピーナの歩く姿の美しさですが、この興味と疑問は1年以上も続きました。SMのレストランで食事する時も、表通路側に座ってウォッチングしたものです。当時の家主さんにそのことを話したら、ニヤニヤだけでした。彼自身、数年間、日本で働いただけに、日本人の国民性や生活習慣をそれなりにウォッチしていた人物です。今から書くことは、1年以上一緒に暮らした彼でも語ってくれなかったことです。別に意図的でもなんでもない、子々孫々から伝わってきている伝統なので、あえて語ることもしなかったとも思えます。

ところが、先月出会った日本から来た日本人旦那さんとフィリピーナ奥さんと話している内に、その奥さんにそのことを話したら、意外な言葉がはね帰ってきたのです。フィリピンでは子々孫々、グランド・パパママからず〜っと伝わってきているもの、と彼女が前置きしての話です。まあ、読んでみてください…。

フィリピンでは、両親が赤ん坊に股間から両脚下に独特のマッサージをしてきているというのです。「矯正」と言ったほうがイイとも言います。具体的には男女の区別なく、股間は性器周辺から始めて、次第に両股から両脚、さらに両足から踵に至る、押しつけるようなマッサージです。赤ん坊が歩くようになるまで続ける、というのです。「だからよ、ご覧なさい私の息子を…」というかれらの息子で今期からフィリピンの大学へ入学する「祐太くん」を指して言いました。ちなみに、この夫婦のことは、以下をクリックすると出てきます。

<http://www.a-bombsurvivor.com/weeklymessage.2011/weeklymessage.jpn.2011.3.28.138.html>

エッ!? それって聞いたことがありませんよ。貧富の差なく、どの親も、ですか？ホントですか？と思わず、たたみ掛けて言いました。もうそれからというものは、手当たり次第に会う人ごとに、そのことを確認しました。どうでしょう、異口同音にイエス！が跳ね返ってくるではありませんか！イヤハヤ、ビックリしました。くだんのペペさんにも訊きましたが、それって当たり前だよと言わんばかりに、平然とした顔でこたえました。

皆さんの意見を総合すると、どうやら爺ちゃん婆ちゃん時代から、というよりも、子々孫々に伝わる習慣のようです。3百年のスペイン植民地時代を経た国だけに、スペイン文化の影響？とも思って訊ねましたが、明確にはかれらは答えません。答えられないのかもしれませんが、確証があるわけではありませんから・・・。

数日前に、インターネット契約の解消交渉で訪問したGlobe社のサンタローサ営業所(SM内)で、長時間交渉相手になった担当のローナという女性と話す中で、そのことを訊ねました。「スペイン文化が発祥？」という訊ねる私に、彼女はニコニコ笑いながら言いました。「何時の時代に私たちの先祖が始めたかは知る由もありませんが、ひょっとして、スペイン人から学んだのかも知れませんね・・・」と。

何時か、その特殊マッサージとやらをこの眼で見聞、取材したいのですが、素人考えかもしれませんが、こんなことを私は想像しているのです。

赤ん坊は洋の東西を問わず、足が曲がっています。オシメで両股を押し広げられた状態だからかもしれません。両脚はといえば、寝たきりですから、広げられた股間の延長線上で、曲がり気味になるでしょう。いわゆる「蟹(がに)股スタイル」です。素人考えかもしれませんが、そのまま生育するとある種の後遺症的な「がにまた」になるかもしれません。そうしたことへの危機感が、フィリピン人の先祖から伝わってきた対策かもしれません。

脱線して恐縮ですが、私が生後10カ月頃に、母が気付いたことは、オシメを取り換える時に、バタバタ動かす両脚の片方がダラ～ん、と投げ出して動かないことを見て取った母が、ビックリ仰天して医者に診てもらったのでした。「センセイ、この児は小児まひではないんですか!？」と。母親の直感でした。「お気の毒ですが、そうです。どうしても手の打ちようがありません・・・」と。

なんと、その前日に発熱した私を、その医師に診てもらった母だったのです。「センセイ、まさか、この児は小児まひ(ポリオ)ではないでしょうね?・・・」と。即座に否定したのがその医師でしたが、その先生に母はフロアかデスクかは分かりませんが、ひどく叩いて言ったそうです。「センセイ!だから言ったじゃアないですか!」と、地団太踏んで抗議したそうです。母親の本能って、すっごいものがあります。

話を戻しますが、生まれて間もない赤子の身体は柔らかいです。ちょっとした「矯正」で、容易に変化をすると考えます。歩けるようになってから、ピタリと止めるその習慣だと知らされました。ニッポン人でこうしたことを実践している人は、未だかつて知ったことは全くありません。

前述したように、つつましやかさが、逆に内股姿勢を増長しています。和服を着た時の姿勢はその典型です。あたかもそれが女性美の代表であるかのような振る舞いとも言えるでしょう。ま、和服を着たときはそれでイイかもしれません。でも、洋服を着てハイヒールを履いた時に、その姿勢ではまったく様になりません。

CNNなど海外テレビの女性報道者の姿が対照的ですが、両足を男性のように広げて、しかもつま先は内またでなく、広げた状態で堂々と語る姿は魅力的でさえあります。その逆には、弱々しくかつ、殊更に繕った「大和撫子」ぶりが垣間見られます。・・・と、これはヨシダ流の観方でしょうか？

さて、長くなりましたが、フィリピーナの歩く姿の美しさに話を戻します。大発見(?)したことを証言します。その第一点は、前述したように、赤ん坊時代から「矯正」された、スックと、真っ直ぐに伸びた

両脚です。第二点は、(これが大事なことです)フィリピン人特有のDNA体格である、ヒップ(お尻)が大きなことです。

と、こんなことを書いたら80歳のヨシダはエッチ！と言われるかもしれません。じじつ、フィリピーナのスタイルの良さは世界ナンバー1だという評価もあるのです。アメリカ人男性が特に好むとかで、奥さんにする人が多いそうです。

でっかいお尻は、身体全体の中心部位にあるために、身体全体がどっしりとした感じを与えます。どんなに太っちゃの女性でも、それに伴ったおヒップの大きさですから、少しも違和感がないのです。堂々と、という表現に拍車がかかるほどの外観です。

しかも、(と、ここであえてお断りする、私の年齢に相応しくない表現ですが・・・)後ろから見ると、そのおヒップがモリモリっと、左右にうねる様に動くのです。身体の中心部分がクネクネと左右に悩ましく動くのですから、それだけで「堂々」とした感じですよ。

加えて、当事者のフィリピーナと言え、重心がでっかいおヒップにあるためにか、背中をニッポン人みたいに曲げられません。自然に背筋を真っ直ぐにせざるを得ない、というのが、ちょっとエッチなヨシダ爺ちゃんの「分析」です。この分析は正解だと信じて疑いません(笑)。

日本に出稼ぎのフィリピーナは多く居ます。こうした分析が正しいかどうか、読者の方々は今後、彼女たちの姿を街で見かけたら、ぜひともウォッチングしてみてください。もっとも、失礼にならぬように、ではありますが。かくいう私も、広島で何度か見かけた彼女たちでしたが、そんな眼で観たことは皆無でした。何ごとも住む環境で、人間の観方もかわるものだと痛感します。イヤハヤ・・・ではあります。

蛇足ですが、こんなことがありました。今から1年半も前のことですが、ある観光地でのこと。多くの観光客の中で、腕を組んで小走りに走る二人連れの女性がいました。一緒だったペペさんが言いました。「ユウキ、ご覧よ、あの二人はニッポン人だよ。コソコソと前かがみで自信のなげな恰好で・・・」。じじつ、背中をまるめて前かがみで、歩調も小刻みで自信な気に、という風情でした。よくみると、紛いもなくニッポン人女性でした。

(別記)

1. 本稿はフィリピンのことをお知らせするためのものであるだけに、英語版も作成して、フィリピンの人たちにも読んでもらい、大いにプライドを抱いてもらいたい心境です。でも、果たして何時の事になるやら・・・です。

2. グーグルで「フィリピンの赤ちゃんの矯正マッサージ」で検索すると「O脚矯正」という言葉に出会いました。タイ国でもあるそうです。目下、手当たり次第に関係者に問い合わせ中です。何時か実際に、この眼で見学したいと考えています。下記の写真は先祖伝来の両親から赤子時代に授かった

そのマッサージのお陰で見事に成果を出しているフィリピーナたちのステキな脚線美です。



2011年4月4日

吉田祐起

(原爆生存証言執筆者／健康・生きがいづくりアドバイザー)

[yoshida.yuuki@a-bombsurvivor.com](mailto:yoshida.yuuki@a-bombsurvivor.com)

[Back to Top \(Jpn\)](#)

[Back to Top \(Eng\)](#)

(Copyright 2004-2010 Yuuki Yoshida All Right Reserved)